

## 1 学校教育目標

○進んで学ぶ人 ○礼儀正しい人 ○やりとげる人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒一人一人の資質と能力を伸ばす学校 ○教師が常に指導力の向上を目指す学校 ○生徒・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	○自ら学ぼうとする意欲があり、自尊感情と自己肯定感の高い生徒 ○礼儀正しく、他者には優しく自分には厳しい生徒 ○努力と挑戦を重ね、粘り強く学ぶ生徒 ○自ら考え判断し行動できる生徒
○教師像	○教育公務員として使命を自覚し、その職責を果たすことのできる教師 ○常に自己の指導力の向上と生徒理解に努め、研鑽に励む教師 ○教育への情熱と生徒への深い愛情があり、豊かな人間性を身に付けた教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状及び成果】

- ① 多くの生徒が落ち着いて授業を中心とした環境で学校教育活動が展開されている。授業改善と授業改革に努める教員の姿勢がある。
- ② 各学校行事（運動会、文化祭、合唱コンクール）では達成感や連帯感をもてるものとして実践できた。保護者や地域からの学校生活アンケートでは「行事への対応の内容は適切であったか」の肯定的評価94%と高い評価を得ている。
- ③ 小中連携の取組を通して生徒主体となる授業実践が定着してきている。教科での系統性を考え学習課題からめあてを引き出す授業を目指した令和5年度から発展的に令和6年度は表現活動について焦点を当て検討するなど、進歩することができた。令和7年度につながるものとなった。

### 【課題】

- ① 学力の向上の基礎となる学習意欲の向上を図るため、一人一台タブレット端末を使用した授業を展開し、生徒授業アンケートや学力調査等の結果・分析と教師の授業改善の意欲推進や授業外（家庭学習）における学習の意欲的な取組の充実を図る必要がある。
- ② 個別最適な学びの視点から、指導の個別化と学習の個性化を図り、知識・技能の着実な習得を図るとともに単元全体をとおして、見通しをもたせ、思考力・判断力・表現力、問題解決能力の育成を図る。その為には生徒が主体となる授業展開と改革による、生徒が主体となる授業を展開し、それら学校での学びを実際の生活に生かしていけるような一層の取り組みが必要である。
- ③ 不登校生徒と登校しぶり生徒の割合は改善されてきているとはいえ高い状況が続いており、生活指導部と教育相談部、教育相談コーディネーターを中心に学校全体で組織的に取り組むとともに、SCの活用SSWを活用した関係機関等との一層の連携を図る。サポートルームの活用もさらに進めていく必要がある。

生徒の問題行動への初期対応、保護者への対応、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けて、学校全体で組織的な対応を継続する。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	キャリア教育の充実		○	○		
3	心の教育の充実と組織的な対応		○	○		

### 5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学びの意欲と学力の向上		到達度確認テスト 正答率学校全体 62% 令和6年度通過率 65%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善	全教科 全教員	通年	○全教員が足立SDを基とした自力解決や協働学習を充実させ、生徒主体の学習展開の授業を実践する。  ○年間3回他教科校内授業観察週間の設定と研究協議会を実施し授業改善による指導力向上を図る。	○年間3回の管理職授業観察シートによる授業評価と自己申告面接  ○実施後の教員アンケート	○生徒授業アンケート「授業が楽しい」80% 管理職評価B以上80%  ○研究協議会終了後の授業改善に生かした教員90%			自己評価の際に記入

2 新規	ICT機器を活用した授業改善	全教科 全教員	通年	<p>○授業内でのタブレット端末におけるデジタル学習素材（アプリ）を有効活用した授業実践を行い授業改善を図る。</p> <p>○デジタル学習教材を活用した家庭学習の課題の提供を行う。 グーグルフォームやキュビナの活用</p>	<p>○管理職授業観察・評価と自己申告面接</p> <p>○学習進路部による状況確認アンケート 年2回</p> <p>○生徒アンケート ICT活用 年2回</p>	<p>○授業にICT活用した教員100%</p> <p>○教員アンケート平均週1回以上活用80%</p> <p>○生徒アンケート授業でICT機器が活用された肯定的意見90%</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
3 継続	小中連携を通じた授業改善	全教科 全教員	通年	<p>○小中連携での「デジタル学習の実践と学習方法の統一性」を主題とした研究授業公開と協議会及び研修会（年7回）を実施し授業改善を図る。</p>	<p>○各会終了後の議事録の共有と教員アンケートの実施</p>	<p>○小中連携教員間の肯定的意見80%</p>	
4 継続	キュビナを活用した朝学習での基礎学力の定着	全生徒 国語 数学 英語 理科 社会	週5回 通年で実施	<p>キュビナを活用した毎朝の帯活動として朝学習10分間を徹底することで学習習慣を身に付け基礎学力定着と学力の向上を図る。</p>	<p>キュビナ活用レポートによる分析と検証対策</p>	<p>月平均回答数 全教科合計150問以上 8月の回答数の向上</p>	
5							


<b>重点的な取組事項－2</b>	キャリア教育の充実
-------------------	-----------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自身の特性に応じた進路を考え、将来の夢や目標に向かい努力できる力を身に付けさせる。	区調査意識アンケート 「将来の夢や目標を持っていますか」 学校全体 70%以上 「努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う」 学校全体 80%以上			

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
組織的なキャリア教育の実施	区学力調査の意識調査 「将来の夢や目標を持っている」70%以上 生徒アンケート 「なりたい職業や興味をもっている職業がある」75%以上	○学習進路部によるキャリア教育の計画的な実施 1年職業調べの実施と掲示 2年職場体験学習の実施 3年上級学校調べ進路学習の実施を通して将来について考えさせる。 ○外部指導者を招き特別授業を実施することで職業について考えさせる。			

自己評価の際に記入

特別活動の充実	区意識調査 「自分がやるべき事は、やりたくないときでも、きちんとやりぬくことができる」80%以上	○学級活動の充実 各行事に取組ませる事前事後学習の充実を図る ○学校行事の充実 これまでの行事に生徒の意見を取り入れる活動を実践する ○生徒会活動の充実 校則見直し等に生徒の意見を取り入れる場を設定する	自己評価の際に記入
小中連携の強化	区意識調査 「難しいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる」 80%以上	○義務教育9年間の小中一貫教育の視点によるキャリア教育スタイルを検証し推進する 小中連携担当部門を設置する	
地域の力を生かした地域貢献活動	関係地域で行われる行事に生徒ボランティア参加人数の向上	地域関係者との交流や地域に貢献する意欲の向上させることで。 ・地域清掃ボランティア ・桜樟祭へのボランティア	

重点的な取組事項－3		心の教育の充実と組織的な対応			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	生徒一人一人を大切にす心の教育	区意識調査 「自分には良いところがある」項目の数値向上75%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

<p>○心の教育の充実</p> <p>○いじめ防止</p> <p>○道徳授業の充実</p>	<p>・WEBQU調査 学年「学級生活満足群」 全国平均+10ポイント</p> <p>・要支援群の数値減少</p> <p>・学校評価による心の育成についてB評価以上 90%</p> <p>・自己肯定感の調査で、 肯定的評価の生徒 90%</p> <p>・いじめ防止活動アンケート集計肯定的評価 90%</p>	<p>○WEBQU調査年2回 QU研修の実施</p> <p>○学年検証会議2回実施</p> <p>○生徒会と保護者地域関係者との連携活動の実施</p> <p>○生徒会自治活動の充実と「いじめ根絶」活動の実施</p> <p>○外部指導者を招き特別授業を実施</p> <p>○ローテーション型道徳授業の実施と公開授業における地域関係者との協議会の実施</p>	
<p>○不登校生徒・登校しぶり生徒への対応</p>	<p>・学校評価「子供は第十四中の生活に満足している」項目B以上 90%</p> <p>・不登校生徒の登校支援をすすめる継続的な関係づくりと定期面接の実施</p>	<p>○特別支援委員会と教育相談コーディネーターによるケース会議の計画的実施</p> <p>○SSW、SCの有効活用</p> <p>○学校での居場所づくり</p> <p>○保護者、地域関係者との連携</p>	
<p>○全校体制での生徒への個別支援</p>	<p>教育相談部会の年間35回以上実施</p>	<p>○毎週木曜2校時に教育相談部会を実施</p> <p>○SC・SSWと不登校、不応適生徒の情報の共有化を図る。</p> <p>○特別支援教室との個別支援の連携充実を図る。</p>	

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。